

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

立教百八十五年の新春

明けましておめでとう。めでたき年も。

旧年中は、コロナウイルス感染症により、思うような活動が取れな
い中でしたが、個々にたすけ一条の上にお勤め頂き、誠にご苦勞様で
した。

本年五月二十二日に勤めさせて頂く、創立百三十周年記念祭、七代
会長就任奉告祭に向けて、活動方針、実動項目を心定め、仕切って歩
ませて頂いて参りましたが、いよいよその年を迎えさせて頂きました。

道の上に、世界の上に、個々の身の上に、様々な節をお見せ頂いて
居りますが、全ては、子供可愛いそれ故に、一列人間をたすけ、陽気
ぐらし世界へとお導き下される、篤い親心の現れであります。

元初めだし以来、これからも変わることなく私達をお見守り下され、御守護下されている親
神様の親心に添えるよう、初代先人達が、教祖ひながたの道を頼りに、教えに基づく生き方を
心掛け、たすけ一条に励まれた道に、更なる実を積み重ねさせて頂けるよう、本年も皆様方の
更なるお力添えを賜り、共々に一手一に勇んで、おばにつくし運び、ご恩報じの道を邁進させ
て頂き、記念祭・奉告祭が意義ある節となるよう、歩ませて頂きたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

立教百八十五年 元旦

繁藤大教会長

坂本照仁



【主教百八十四年十二月月次祭 祭文】

これの神存にお鎮まり下さいます親神天理玉令の御前に、天理教繁藤大教会長坂本照仁慎んで申し上げます。

親神様には、はらさしいかりいた事ならば、このよたしかにをさまりがつく、と人間宿し込みのぢばにその証拠としてかえらぬを建設するならば、世界が活まり陽気ぐらしの世界に立て替へてくると思召、たすけ一条の道を教え下され、ひたすらに成人をお導き下さいます親心の程は誠に有難い極みでございます。

私共は及ばぬながらも教えに基き生き方を心掛け、思召に添ひ切るよう日々御恩報じを念じてひのきしんに励ませて頂いて居ります。その中にも今日の吉日は早くも納めの十二月の月次祭を執り行う日柄となりましたので、只今から参集う人々と共に、おとめ奉仕者一同一手にて座りづとめをどり陽気に勇んでとめさせて頂きます。何卒親神様にもこの真実をお受取り下さいまして、世界たすけのようばくとしてお使い頂き、よろうたすけの上には心通りの御守護をお見せ頂き、お連れ通り下さいますよう御願ひ申し上げます。

又、私共一同は、年頭に創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭に向けて、信仰の元一日に立ち返えらう。活動方針、人々のたすかりを願ひ陽気ぐらしの輪を広げよう。実動項目、おとめ・朝夕に神様に手を合わせよう。にをいがけおたすけ・悩める人に耳を傾け寄り添う。陽気ぐらしの実践・親孝行夫婦仲良く陽気ぐらし、を心定め勤めさせて頂いて参りましたが、道の上にはお目標様のお戻り、世界の上にはコロナウイルス・自然災害等、個々の上には、身上・事情と様々各節をお見せ下され、心の掃除をお急ぎ込み頂き、成人へとお導き頂いてまいりました。その中にも、一れつ人間をたすけてやりたい一条の親心を以つてお見守り下され、大難は小難に、小難は無難にとお連れ通り下さいました親神様の深く厚い親心の程は誠に有難い限りでございます。この一年にお見せ頂いた節を顧みて、節から芽が出るご教え頂いて居りますように、来たる創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭が旬の理となるよう一段と心を引き締め、真実の種を蒔かせて頂けるよう努力を重ね、たすけ一条に一層勇んでとめ切らせて頂く所存でございます。

何卒親神様にもこの心定めをお受取り下さいまして、人々の心を澄み切らせ、親神様の御理に目醒めて、やがては世界一れつ兄弟、互いに扶け合い睦び交わす陽気ぐらしの世界へと立て替へりますよう、お導きの程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十四年十二月月次祭祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	扨者	男	女	地方	笛	チヤンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話													
大教会長	藤田憲明	佐藤栄治	田村久徳	空閑一教	佐々木恵	座りづとめ	大教会長	藤田久徳	坂本久徳	空閑さとの	黒石伸子	大教会長夫人	田村辰久	為田紀久男	田村久徳	坂本久徳	村久徳	村久徳	宮田孝道	為田基紀	坂本輝男	藤田憲明	佐藤節幸	佐藤栄治	佐藤順子	坂本好恵	藤田洋美	村上英士		
八足出し																														
安部道郎	伊藤正福	秋月真一郎	立花真一郎	佐々木恵	佐藤成彦	てをどり前半	空閑一教	空閑一教	藤田一憲	宮田まゆみ	佐藤文代	坂本喜子	宇山基紀	土居道久	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾	空閑慶吾
てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半	てをどり後半

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭

令和四年五月二十二日執行

【神殿講話】

(一月) 大 教 会 長 様

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(一月) 宮 田 孝 道

【教会長神殿当番】

(一月) 奈井江・胆 沢・紋 湧

(二月) 細 島・日之富・大豊田

【詰所教養掛】

(一月) 立 花 真一郎

(二月) 田 村 聡 佐

【詰所事務掛】

(一月) 坂 井 博 文

(二月) 村 上 由 高

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん

一月二十五日～二十六日 (未 定)

○本部食堂ひのきしん

三月十六日～三十一日

高 杉 分 教 会

七月一日～十五日

紋 膽 分 教 会

【五季づとめ】

一月は五季づとめの月でございますので、左記の通り上級を通じてお納め下さいますようお願い申し上げます。

記

一、五季づとめ 三、五〇〇円

【立教百八十五年三日講習会開催について】

現在三日講習会は、新型コロナウイルスの影響により、出来る限りの感染予防策を講じて、三十六名を定員に開催を続けられています。立教百八十五年の開催についても、大勢の受講者を集めることは難しい状況であります。

そこで、立教百八十五年は、これまで三日講習会Ⅰ、Ⅱを受講し、未だ次の受講をされていない方々を対象に、引き続き三十六名を定員に三日講習会Ⅱ、Ⅲのみを開催されます。立教百八十五年三日講習会開催日程は左記の通りです。

▽三日講習会Ⅱ

三月十六日(水)～十八日(金)

五月六日(金)～八日(日)

七月一日(金)～三日(日)

八月十八日(木)～二十日(土)

九月二日(金)～四日(日)

十一月四日(金)～六日(日)

▽三日講習会Ⅲ

二月四日(金)～六日(日)

四月一日(金)～三日(日)

六月三日(金)～五日(日)

十月四日(火)～六日(木)

十二月二日(金)～四日(日)

【基礎講座おやさ会場連の営変更について】

立教百八十五年四月一日より、平日(月・金)の講座受講が予約制となります。受講予定日の前日正午までに電話もしくはホームページの予約フォームからの予約が必要となります。土曜・日曜・祝日および本部月次祭と教祖誕生祭前後は従来通りの開催となりますが、準備の都合上、できるだけ予約をお願いしたいとのことです。

《基礎講座おやさ会場開催日程》

- 平日(立教百八十五年四月一日から予約制) 13時30分
- 土曜・日曜・祝日 9時30分 13時30分
- 毎月二十六日(一月・十月を除く) 13時30分
- 二十五日・二十七日 9時30分 13時30分
- 一月二十六日 9時30分
- 十月二十六日 13時30分
- 四月十八日 14時30分
- 四月十七・十九日 9時30分 13時30分
- ※十二月二十八日～一月四日 休 講

【本部月次祭昇殿参拝について】

本部月次祭には、現在、各大教会に割り当てられた人数のみ昇殿参拝をさせて頂く事ができます。本年三月までの間、繁藤としての割り当ては各月二十名です。部内教会ごと割り当てはいたしませんので、昇殿参拝を希望される方は大教会坂本久徳(携帯080-3920-1817)までご連絡下さい。先着二十名とさせて頂きますが、二十名を超える場合は、今までの状況を考慮して調整させて頂きます。

【少年会】

「第四十期生・研修員募集」

少年会本部では、おちばでの研修を通し将来各地の教会に於いて少年会活動を活発に行う人材の育成を目指して研修員を募集します。詳細は、少年会団長までお問い合わせ下さい。

【学生会】

来年三月に行われます「学生生徒修養会大学の部」は、今回、三月二日から六日までと、八日から十二日までの二回に分けて開催されます。対象は、大学・短期大学・大学院・専門学校・高等専門学校四年生以上に在学している方です。どうぞご丹精の一助として参加いただけますよう、対象になります学生さんにお声掛けの程お願い申し上げます。尚、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては開催中止の可能性もあります。お問い合わせ申込みは、大教会(為田)まで。

【詰所より】

詰所での宿泊について三十名を上限としましたが、一月より事前に詰所へご連絡いただいた方への宿泊を可能といたします。ただし宿泊の予約状況や、コロナウイルス感染状況に応じて、受け入れが可能な場合がございますのでご了承ください。早めに宿泊希望の旨を詰所まで必ずご連絡いただきますようお願いいたします。

【教会長資格検定講習会(十二月)】

長濱町 中村 隆之

【教人登録】

本山 宮田 智世 垣生 田村 庫治

【をびや】 二件

しづの峠を辿って

vol .7

エピソード⑦ 「照吉二代会長」

【繁藤大教会二代会長・坂本照吉】

- 明治十四年 6.11 繁藤字秋ノ谷にて出生
- 明治三十四年 12.12 おさづけの理拝戴
- 明治三十五年四月 高知分教会青年づとめ (二年間)
- 明治三十五年五月 高知にて布教 (半年間)
- 明治三十八年 北海道布教に赴く (紋別)
- 明治三十九年 種崎 (三里村) で布教をはじめ
- 明治四十一年 亀と結婚 (伊野の片岡家より嫁ぐ)
- 明治四十二年 3.25 豊養宣教所長拜命 (二代)
- 明治四十五年 6.28 繁藤分教会二代会長のお許し (31歳)
- 大正十一年 10.29 教区主事
- 大正十五年 11.6 四十六歳で出直し
- 同日 高知大教会役員拜命

【二代会長の兄弟姉妹】

- 長男・照吉 坂本徳太郎・八重の長男として出生
- 次男・登 幡多分教会の柿谷家に婿養子へ
- 長女・繁於 岡田重勅を婿養子に迎える (元小学校校長)
- 次女・照尾 土井家へ嫁ぐ
- 三女・奈良恵 木下家へ嫁ぐ
- 四女・奈良於 町田家へ嫁ぐ
- 三男・道久 浜田家の養子となる。繁藤大教会三代会長

補筆

【二代会長時代に設立された教会】

- 彦島 (M45.6.8) 伊予楠 (のちの生安・T2.2.7)
- 奈井江 (T2.9.5) 種崎 (T5.6.17)
- 紋別 (T6.7.29) 添田 (T7.11.2)
- 伊岐須 (のちの繁金・T8.5.15) 飯武 (T8.10.5)
- 城幡 (T8.10.24) 方城 (T10.2.2)
- 板櫃 (T10.4.9) 富久地 (T10.4.25)
- 高関 (のちの繁山・T11.3.27) 高阪 (T11.10.5)
- 最寄 (T12.1.11) 實弥原 (T13.4.29)
- 小満津 (のちの空心・T14.2.4) 新居浜 (T14.3.13)
- 武富士 (T14.3.30) 本訓 (T14.5.15)
- 中山香 (T14.6.25) 矢井賀 (T14.9.5)
- 十知 (T14.9.5) 佐岡 (T14.10.24)
- 種忠 (T14.12.11) 種孝 (T14.12.11)

想

前号に記載しましたが、照吉二代会長の少年期のころ、教会は貧の谷底の道中でした。日々のお供えする御洗米にも事欠き、少年だった照吉氏は郵便配達夫をつとめて家計をたすけました。初代奥様はかつては雇い人等とともに楽しく陽気に働いた田地に、今日は一介の日雇い人となり、その日の糧を求め、外出のときなどはいつも借り着して行かれたとのことでした。

また、あまり知られていないかもしれませんが、二代会長は青年時代に北海道へ布教に出られています。当時、二十四歳くらいで北海道に渡り、紋別地方を中心に、おさづけ人及び教導

職者をまとめ、繁藤支教会紋別組合を結成しています。その名簿には、本山から布教に出ていた筒井氏や川井氏をはじめ、田中氏や見崎氏等が名前を連ねています。その後、高知に戻つてからは、種崎にも布教に出られています。

照吉二代会長の会長在職は十五年でした。初代会長にくらべ、二代会長時代は残された資料等が少ない現状があります。そんな中でも主な事柄に、会長になる前に幾度も布教に出られていたこと、当時ばらばらであった北海道の信者さんたちをまとめあげたこと、また十五年の在職中に二十六ヶ所もの教会が設立されたことなどがあります。二代会長時代を振り返ると、初代に続き、苦勞の中を通つてくださった道があり、その上に今の結構な繁藤の姿があるということを感じずにはおれません。

最後に、二代会長が残したお話はわずかしが残っていませんが、その中で私が心に残つた一部を紹介させていただきます。

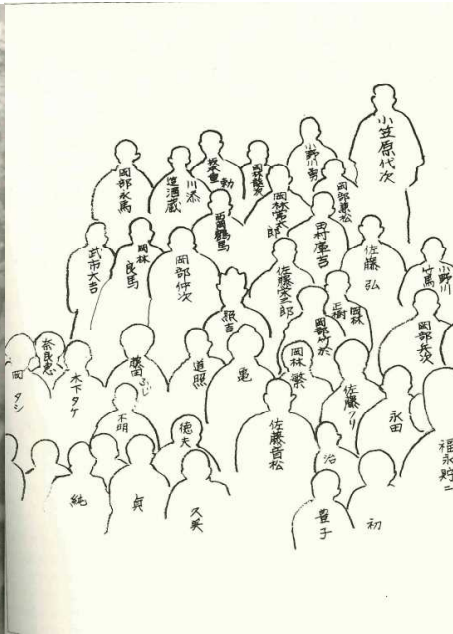
〔三十年祭につけての心得（抜粋）〕

ほこりを払わなければならぬ一方、ちがえば不足不満で通らさせてはどうもならん。一家内々にしましても、以前より信仰させてもらう中にも、種々のほこりをつんでおるゆえ、一人が何でもこの節より勇んでゆけば理をふく。反すれば悪しき芽がふく。善き道を通れば安心が出来るのでありますから、この節を切らしていただくには、三つ身につく「つなぎ」を守らしてゆきましたなれば、一家が結構につながれてしまう結果になりますし、みがきの上にもみがきて通りますれば、大難は小難というように、運のなき人は運が開き、理のない人に理が出来てくるのであります。このことがわかりますれば、結構極楽の道を見させていただくこともわかる。徳をいただくことが出来るのであります。

（小林林太郎宅にて・大正四年十二月二十一日）



春季大祭の時に



大正12年1月16日



二代会長 坂本照吉



二代会長夫人 亀

立教百八十四年活動方針

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭に向けて

《信仰の元一日に立ち返ろう》

活動方針

(三年間を通じ)

『人々のたすかりを願い、
陽気ぐらしの輪を広げよう』

実働項目

- おつとめ
 - ・朝夕に神様に手をあわせよう
- にをいがけ・おたすけ
 - ・悩める人に耳を傾け、寄り添う
- 陽気ぐらしの実践
 - ・親孝行、夫婦仲良く、陽気ぐらし

三年千日活動

- ・本部月次祭に参拝し、おちばの理を戴こう
- ・毎月二十六日朝、本部回廊拭きひのきしんの実施
- ・ブロック活動
 - にをいがけ、ひのきしん、バザー、物々交換、お楽しみ行事を通じて、友だちを誘い参加してもらおう